

電動車椅子製作に関する地域格差について

島本 卓

兵庫頸髄損傷者連絡会

1. はじめに

令和4年11月6日(日)、一般社団法人リハビリテーション工学協会関西支部セミナー「電動車椅子製作に関する地域格差について」が開催されました。開催に先立ってアンケート調査が実施されており、調査結果の報告と、電動車椅子ユーザー3名による講演が行われました。

当日は、会場とオンラインのハイブリッド方式で開催されました。オンラインでの参加もできたので、兵庫県以外の電動車椅子ユーザー、車椅子メーカーの方等も参加されていました。私も電動車椅子ユーザーであり、今後、電動車椅子を製作するにあたって、多くの情報を知る貴重な機会でした。

2. アンケート調査

アンケートは「どこに居ても、どこに住んでいても、自分の生活環境に合わせた機器の選定」ができているのか実態を調査するため、近畿2府4県の頸髄損傷者を対象に実施され、25名の回答結果が今回のセミナーで報告されました。

3. アンケート結果から

①製作の満足度について、満足と回答した人が半数でしたが、不満と回答した人もいました。「機能面では満足だけど、故障したときの費用がかかる」ことが理由として挙げられました。

②電動車椅子制作時の自己負担について、自己負担がなく製作できた方もいましたが、自己負担が20万円以上と回答した人も全体の40%いることがわかりました。

4. 電動車椅子ユーザーの講演

はじめに、山中氏が話されました。入院時にセラピストに相談しながら手動車椅子を製作し、退院後はヘルパーを利用しながら外出をされていたそうです。同じ頸髄損傷の方から電動車椅子のことを教わり、電動車椅子の申請を決められました。福祉用具の担当の方が車椅子ユーザーだったので、情報が得やすい環境だったと話されていました。

つづいて、島本義氏が話されました。入院時から、起立性低血圧がひどく、痙性が強かったことで座位保持ができなかったそうです。入院中にPTと業者にアドバイスをもらいながら、手動車椅子を製作されました。退院後、手動車椅子では外出はできない環境であり、電動車椅子を申請されました。その際、労災の認定を受けられ、自己負担がなく製作できたと話されていました。

3人目は、橘氏が話されました。入院時に電動車椅子(顎コントロール)の練習をしたことがあり、退院後に電動車椅子を製作するために行政に行かれました。結果、4年後でなければ申請できないことがわかったそうです。申請と同じ時期に足を骨折し、骨密度の低下が不安だったことから、前傾ティルト機能がある電動車椅子を自己負担で製作することを決められたと話されていました。

5. まとめ

私は、今回のセミナーで、特に費用についての報告が印象に残りました。個々の身体状況に合わせた電動車椅子が、どの地域であっても同じ費用で製作できるようになることが重要です。電動車椅子ユーザーが、リハ工関係者やメーカーさんと意見交換できるような場が、もっと多く必要だと思います。

兵庫頸髄損傷者連絡会